

平成18年度 病害虫発生予察情報

発生予報第2号（5月）

平成18年5月2日
島根県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや少ない
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	少ない
		ニカメイチュウ	平年並
		ツマゲロヨコバイ	平年並
		イネミズゾウムシ	平年並
		黒斑病	やや少ない
果樹	ナシ	黒星病	やや少ない
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	やや少ない
		ハダニ類	やや少ない
		柿タガアザミマ	平年並
野菜	カキ タマネギ	ホトリ糸菌による葉枯れ	やや少ない
		べと病	平年並
	イチゴ	腐敗病・軟腐病	平年並 ~ やや多い
		灰色かび病	平年並
		アブラムシ類	平年並

中国地方1か月予報（4月29日～5月28日・広島地方気象台4月28日発表）
向こう1か月の気温、降水量及び日照時間は平年並みの見込みです。

A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない
予報の根拠

現在、発生を認めていない。
5月の気象は、気温、降水量ともに平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 平年並
予報の根拠

ムギの出穂は平年に比べて遅い。
出穂期以降、降雨はやや少なく、潜伏感染量はやや少ないと考えられる。
5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 やや少ない
予報の根拠

現在、発生を認めていない。
5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
発生地方 県下全域
発生量 少ない
予報の根拠

灯への飛来は、4月第6半旬まで認められない。
4月中旬のすくい取り調査では、捕獲数は0頭（平年0.16頭/20回振）、
発生圃場率は0%（平年7%）で発生量は平年に比べて少ない。

5月の気象は、気温、降水量ともに平年並みと予想されており、本種の発生を助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ(第1世代)

予報内容
発生地 方 県下全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比48%で、越冬量はほぼ平年並みと考えら

れる。およびフェロモントラップへの飛来は、4月第6半旬まで認められない。5月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容
発生地 方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比48%で、越冬量はほぼ平年並みと考えら
れる。およびフェロモントラップへの飛来は、4月第6半旬まで認められない。5月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容
発生地 方 県下全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比83%で、越冬量は平年並みと考えられる。5月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地 方 県下「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比48%で、越冬量はほぼ平年並みと考えら
れる。およびフェロモントラップへの飛来は、4月第6半旬まで認められない。5月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容
発生地 方 県下ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比83%で、越冬量は平年並みと考えられる。5月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(4) シンクイムシ類

予報内容
発生地 方 県下ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや多い

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比83%で、越冬量は平年並みと考えられる。5月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(5) ハマキムシ類

予報内容
発生地 方 県下ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比83%で、越冬量は平年並みと考えられる。5月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

- (6) ダニ類
 予報内容発生地 県下ナシ栽培地帯
 予報発生量 やや少ない
 予報の根拠 トラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
 4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は1.7%(平年3.3%)とやや低い。
 5月の気象は本種の発生を特に助長的する要因とはならない。

- 3) カキ
 (1) キクダアザミウマ
 予報内容発生地 県下カキ栽培地帯
 予報発生時期 平年並
 予報発生量 平年並
 予報の根拠 4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
 4月26日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
 5月の気象は気温、降水量ともに平年並みと予想されており、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

- 1) タマネギ
 (1) ボトリチス属菌による葉枯れ
 予報内容発生地 県下全域
 予報発生量 やや少ない
 予報の根拠 4月下旬の調査では、発生量は平年に比べてやや少ない。
 5月の気象は、気温、降水量ともに平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

- (2) ベと病
 予報内容発生地 県下全域
 予報発生量 平年並
 予報の根拠 4月下旬の調査では、発生量は平年並みである。
 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

- (3) 腐敗病、軟腐病
 予報内容発生地 県下全域
 予報発生量 平年並～やや多い
 予報の根拠 4月下旬の調査では、発生量は平年並みである。
 白色疫病の発生量が平年に比べて多いため、侵入門戸となりやすい。
 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

- 2) イチゴ
 (1) 灰色かび病
 予報内容発生地 県下全域
 予報発生量 平年並
 予報の根拠 4月下旬の調査では、発生量は平年並みである。
 5月の気象は、気温、降水量ともに平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

- (2) アブラムシ類
 予報内容発生地 県下全域
 予報発生量 平年並
 予報の根拠 4月下旬の調査では、発生圃場率は25.0%(平年22.5%)、寄生株率は3.8%(平年6.5%)で発生量は平年並みである。
 5月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342